

こんな活動です

中高一貫教育校としての地域貢献 (橋本高等学校・古佐田丘中学校コミュニティスクール)

和歌山県橋本市	●活動名	●関係する学校名
	橋本高等学校・古佐田丘中学校 中高一貫学校地域連携推進委員会	和歌山県立橋本高等学校 和歌山県立古佐田丘中学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	学校運営協議会	指定・設置日	平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	—		4人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	無	
	60人					
参考URL	https://www.hashimoto-h.wakayama-c.ed.jp/					



●連絡先 和歌山県立橋本高等学校・古佐田丘中学校 ☎ 0736-32-0049

●活動の概要・経緯
平成30年度から学校運営協議会として、中高一貫学校地域連携推進委員会を立ち上げた。その中に「学校評価部会」「学習支援部会」「地域活動推進部会」を設置し、地域と学校の課題を互いに共有することで、具体的な取組を生み出す体制づくりを目指した。
令和元年度は、中高一貫学校地域連携推進委員会と地域共育コミュニティ(地域学校協働活動)との連携に重点を置いた取組を行った。中学校では「地域の方々から地域を知る」ことに重点を置いた「ふるさと学習」を、高校では地域に根ざしたボランティア活動を充実させながら、地域の課題に対する地域貢献活動へと広げる「地域学習」を実施している。「ふるさと学習」と「地域学習」は「学習支援部会」が支援し、「地域活動支援部会」では、ボランティア活動を中心とした地域貢献活動の機会の拡充を支援している。これにより、これまで長期休業中に実施されることが多かったボランティア活動が、年間を通じた取組となった。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①橋本市内の小中学校、公民館、児童館、こども園の代表者が集まる「橋本地域共育コミュニティ本部会議(橋本市学校地域支援本部)」に参加し、各施設との連携を強化した。
- ②生徒会が運営するボランティアセンターに、生徒が登録する「ボランティアBANK」制度を設けた。高校生や中学生が、地域の小学校の児童に対し、夏期休業中の学習指導や科学実験教室、読み聞かせ等のボランティアを行っている。また、NPO法人が行う学習支援や体験学習にもボランティアで参加した。令和元年度は高校生・中学生合わせて57名の生徒が登録を行い、年間を通じて様々な形でボランティア活動を行った。
- ③橋本市の「アダプト制度(行政と市民が2人3脚で行うまちづくり制度の1つ)」に参加し、年間を通じた市内清掃活動を行った。また、「総合的な探究の時間」では、橋本市役所と連携し、SDGsの考えに立った橋本市の課題について、生徒が施策を提言する取組を行った。

【実施に当たっての工夫】

中高一貫学校地域連携推進委員会委員が中心となり、地域や関連機関との連携・協力体制の構築、強化を進めたことで、生徒の地域貢献活動の機会を広げることができた。また、「ボランティアBANK」を設置したことで、これまで長期休業中のみだった活動が年間を通して実施できるようになった。

【関係機関・団体等との連携状況】

橋本市役所、橋本市教育委員会、橋本市社会福祉協議会、橋本警察署、橋本市内の障害者支援施設、橋本市各地区、県立きのかわ支援学校、橋本市内の小学校 社会福祉法人「夢あじさい」「つくしんぼ園」「児童デイサービスこまどり」ライフサポート「みのり」特定非営利活動法人地域サポートセンター「ふれあい工房」一般社団法人はしっこ笑顔サポート「ぼれぼれ」等

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

コミュニティ・スクールの基本目標に向けて、これまで継続して取り組んできたボランティア活動等の地域学校協働活動の意義や内容を整理できた。特にボランティア活動は、「ボランティアBANK」の設置により、年間を通して対応できるようになった。また、中高一貫学校地域連携推進委員会が地域での活動を支援してくれたことで、生徒の地域貢献活動の機会が増え、生徒の活躍が地域に広く知られることにつながった。その結果、生徒の自己有用感が高まってきている。

●その他

地域に根ざした取組の一例



地取高
域り野
文組山
化み外
の、国
情国人
報際観
発交光
信流者
のガイ
促イ
進ド
、に



機を土
会講曜
を師講
提座に
供招と
き称
、生
徒、
に地
学域
びの
方